

発行日：2019年5月11日

環境経営レポート

2018年度（2018.4.1～2019.3.31）



目 次

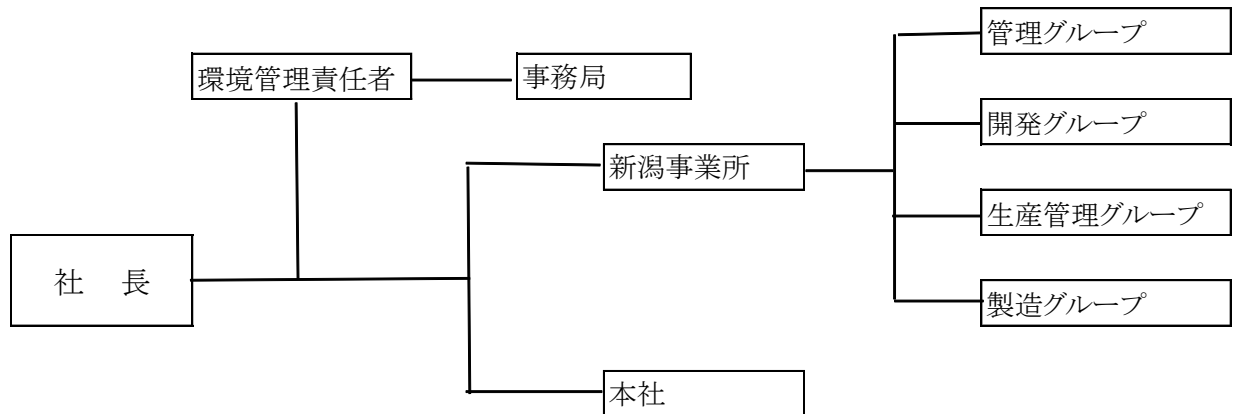
1.組織概要及び対象範囲	P.2
2.環境経営方針	P.4
3.環境経営目標	P.5
4.環境経営計画取り組み状況	P.6
5.環境への負荷チェック	P.8
6.環境経営目標の実績と評価	P.10
7.次年度の環境経営目標	P.12
8.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.13
9.環境関連教育	P.14
10.代表者による全体評価と見直し	P.14

1. 組織概要及び対象範囲要

1) 名称及び代表者

永田精機株式会社
代表取締役 永田 裕悟

2) エコアクション21認証範囲



3) 事業所及び所在地

永田精機株式会社	本社	東京都豊島区北大塚2-11-9
永田精機株式会社	新潟事業所	新潟県燕市上諏訪8番2号

4) 環境管理責任者及び環境活動推進責任者

・環境管理責任者	取締役	白倉 武芳
・環境活動推進責任者		
新潟事業所		
製造グループ	マネージャー	山田 一弘
製造グループ(加工担当)	マネージャー	遠藤 治彦
開発グループ	マネージャー	小林 哲
生産管理グループ	マネージャー	小林 幸人
管理グループ	マネージャー	梨子本 勝
本社	顧問	永田 一雄

連絡先

管理グループ 梨子本 勝

電話 0256-98-5131 (代表) FAX 0256-98-5642 (代表)

E-mail : m-nasimoto@nagata-seiki.co.jp

5) 事業の内容

電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、
製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理

6) 事業の規模

事業年度	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
製品生産量	t	86.4	84.7	58.4	100.1	126.2
従業員数(新潟事業所)	人	109	93	91	91	91
従業員数(本社)	人	5	4	4	4	4
従業員数(大阪営業所)	人	2	-	-	-	-
従業員数(姫路営業所)	人	1	-	-	-	-
従業員数(九州営業所)	人	-	1	1	1	-
合計	人	117	98	96	96	95
床面積(新潟事業所)	m ²	16,292	16,292	16,292	16,292	16,292
床面積(本社)	m ²	554	240	240	240	240
床面積(大阪営業所)	m ²	35	-	-	-	-
床面積(姫路営業所)	m ²	21	-	-	-	-
床面積(九州営業所)	m ²	-	27	27	27	-
合計	m ²	16,902	16,559	16,559	16,559	16,532

事業年度：4月～3月

2015年度より本社移転、大阪及び姫路営業所閉鎖、九州営業所開設

2018年度より九州営業所閉鎖

2. 環境経営方針



環 境 方 針

永田精機株は、電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理を通じ、環境負荷削減に配慮した事業活動を展開していく。

1. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動全領域で、省資源、省エネルギーに配慮した活動を行う

製品生産量（t）当りのCO₂ 排出量の削減

製品生産量（t）当りの水資源使用量の削減

製品生産量（t）当りの紙資源（コピー用紙）使用量の削減

製品生産量（t）当りの一般・産業廃棄物排出量の削減

化学物質の適正管理

グリーン購入（事務用品）の推進

2. 環境関連法規の遵守

該当する環境関連の法規制や条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守する

3. 継続的環境負荷削減の実施

環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境負荷削減に取り組む

4. 環境啓発活動の推進

全従業員に対して環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行う

5. 環境関連情報の公表

環境活動レポートを当社HPで公表する

平成27年7月1日改訂

永田精機株式会社

代表取締役

永田裕悟

3. 環境経営目標

当社は、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んでいく

長期目標

2018年度の製品生産計画を基準値として、2020年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

短期目標

2018年度の製品生産計画を基準値として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を1%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を1%削減する」

二酸化炭素排出量削減目標

製品生産量（t）当り 二酸化炭素合計（kg-CO2）	2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
	5,933	5,874	5,815	5,755

計画基準値を100としての指数

100 99 98 97

●購入電力の排出係数については、2015年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用

紙消費量削減目標

製品生産量（t）当り 紙消費量（Kg）	2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
	10.89	10.78	10.68	10.57

計画基準値を100としての指数

100 99 98 97

水資源消費量削減目標

製品生産量（t）当り 水資源消費量（m ³ ）	2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
	24.75	24.50	24.26	24.01

計画基準値を100としての指数

100 99 98 97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量（t）当り 廃棄物排出量（Kg）	2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
	184.72	182.87	181.02	179.18

計画基準値を100としての指数

100 99 98 97

その他

環境に配慮した製品を製造する
公害等に関する法令を遵守する

4. 環境経営計画と取り組み状況

環境経営目標を達成するために、各項目に対して下記の手順で消費量の削減を図っていく

数値目標を達成するための取り組みと評価（概ね実施＝○、一部実施＝△、未実施＝×）

①電力使用量の削減項目

項 目	評 価
●休日出勤時、残業時、職場内の照明は必要最小限にする	○
●休憩時間は、蛍光灯を消灯する（作業台を含む）	○
●作業者不在となる職場の蛍光灯は消灯する	○
●自然光をできるだけ取り入れ、窓側の蛍光灯を消灯する	○
●作業に支障が無い所の蛍光灯は、常に消灯する	○
●通常使用する照明スイッチにマーキングし、必要な時しか点灯させない	○
●モニター等、OA 機器購入時は、消費電力が低い物を選定する 【管理】	○
●職場内で不要と思われる場所の蛍光灯、換気扇を消す	○
●手洗い場、トイレの蛍光灯は、使用時のみ点灯する	○
●照明器具を年一回掃除する	○
●室内空調の温度設定を、夏は28度、冬は20度とする	○
●帰宅時、最後の人は冷暖房、プリンター、コピー機の消し忘れをチェックする	○
●コピー機は使用したら待機状態にする	○
●5分以上席を離れるときは、パソコンの画面スイッチを切る	△
●プリンターやシュレッダーなどは、使う時のみスイッチを入れる	○
●未使用機械のブレーカーは切る 【製造】	○
●無人運転のNC 機械のディスプレイ画面は消す 【製造】	○
●休出時、またはエアーの必要がない工場の元栓を締める 【製造】	○
●設備機械の漏電、エアー漏れを月一回点検する 【製造】	○
●エアコンのフィルターは、年二回清掃する	○
●製造方法、製造工程に改善を加え、効率的に製造を行う 【製造】	○
●デマンドモニターを監視し、必要に応じて新潟事業所内の空調設備使用の制限を行う 【管理】	○

②化石燃料消費量の削減項目

項 目	評 価
●冷暖房を極力無くし、各自衣類などで調整することを推進する	○
●暖房用ボイラーの設定温度を55度とする 【新潟事業所】	○
●手洗用給湯器の温度設定を40度とする 【管理、製造】	○
●社用車運転時、急加速、急発進、空ぶかしをしない	○
●社用車運転時のアイドリングストップを推進する（駐停車中）	○
●社用車の定期的整備による燃料効率向上、排ガス・騒音レベルの抑制を推進する 【管理、生産管理】	○
●作業終了一時間前にボイラーを停止し、装置内の余熱を有効利用する 【新潟事業所】	○

③紙消費量の削減項目

項 目	評 価
●社内連絡文書はメール化して、紙を使わないようにする	○
●文書で連絡する場合は、回覧、掲示を励行し、配付枚数を減らす	○
●コピーの縮小機能を利用し、紙の消費量を抑える（A4を推奨）	○
●裏紙使用、両面印刷を推進し、紙の消費量を抑えるようにする	○
●連帳全紙で印刷されていた月報は、A4サイズでの印刷に移行する	△
●プロジェクターの利用を推進し、会議用資料の配布を抑える	△
●ミスコピーを防止するため、コピー機の使用後は設定をリセットする	○
●環境に配慮した事務用品を購入する 【管理】	○

④水消費量削減項目

項 目	評 価
●手洗い場に洗面器を設置し、溜め水での手洗いを推進する	○
●水道配管からの漏洩を月一回点検する	○
●バルブの調整により水量及び水圧の調整を行う 【新潟事業所】	○

⑤廃棄物排出量削減項目

項 目	評 価
●シュレッダー使用後のくずを、梱包用クッション材に再利用する 【新潟事業所】	○
●納品に使用されたダンボール箱は、再利用する 【生産管理、製造】	○
●部品払出しに使用されたビニール袋は、再利用する 【生産管理、製造】	○
●トナーカートリッジは回収・再生し、リサイクルに努める	○
●廃棄物の分別回収を徹底し、再資源化に協力する	○
●品質劣化等による不良在庫を減少させるため、在庫数の適正化に努める 【生産管理】	○
●OA 機器等の故障時には、修理可能かどうか確認し、可能な限り修理することで長期使用に努める	○

⑥化学物質の適正管理

項 目	評 価
●使用する化学物質購入排出量の把握 【新潟事業所】	○

⑦グリーン調達

項 目	評 価
●環境に配慮した事務用品の購入に努める 【管理、本社、】	○

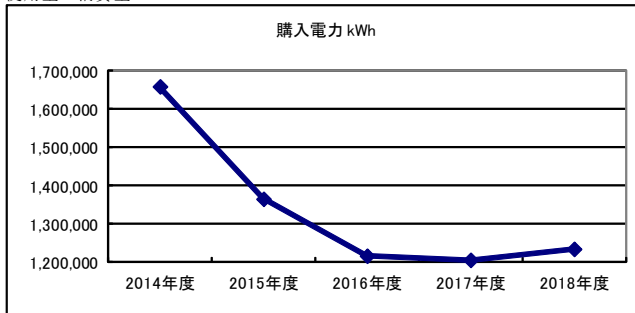
5. 環境への負荷チェック

新潟事業所、本社の合計値で表示した。

九州事業所は家賃内に、電気が含まれており、水道ガスも共用である為、数値把握は不可。

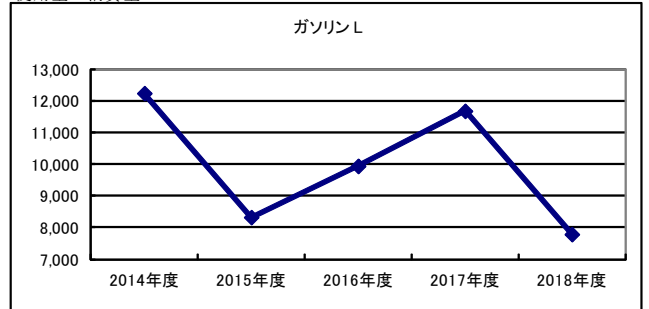
環境負荷実績グラフ

使用量・消費量



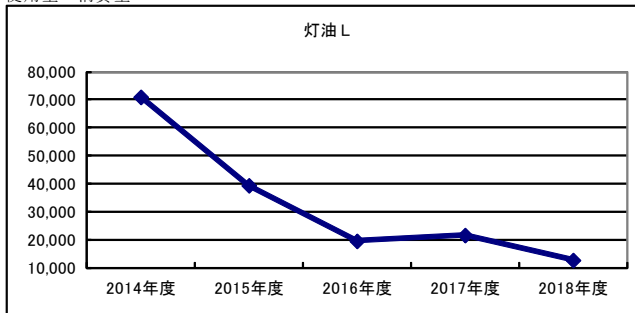
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
購入電力	kWh	1,660,270	1,366,555	1,217,769	1,207,079	1,235,774

使用量・消費量



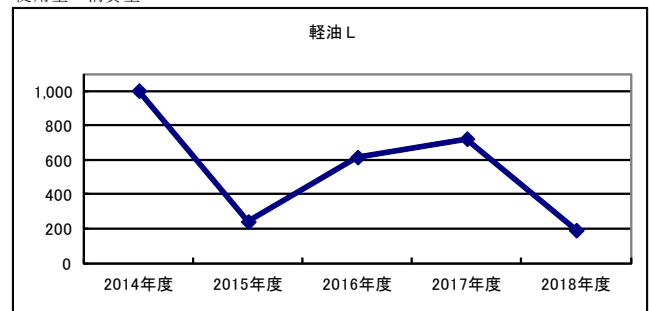
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
ガソリン	L	12,236	8,327	9,941	11,677	7,790

使用量・消費量



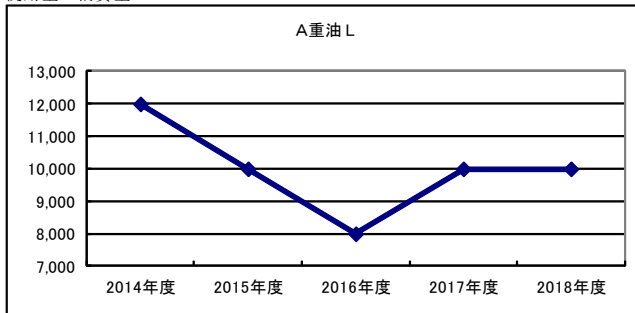
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
灯油	L	70,984	39,393	19,532	21,615	12,690

使用量・消費量



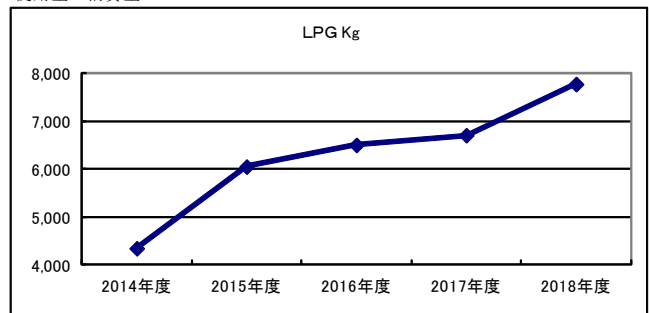
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
軽油	L	1,003	241	616	723	191

使用量・消費量



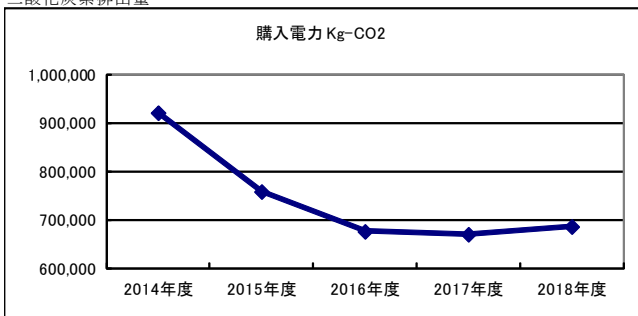
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
A重油	L	12,000	10,000	8,000	10,000	10,000

使用量・消費量



項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
LPG	Kg	4,351	6,059	6,512	6,715	7,784

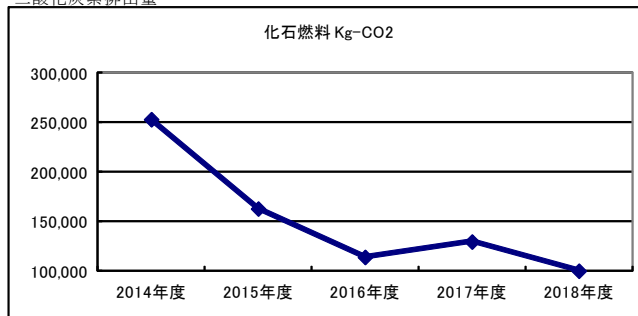
二酸化炭素排出量



項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
電力	kg-CO2	920,641	757,896	675,659	669,678	685,654

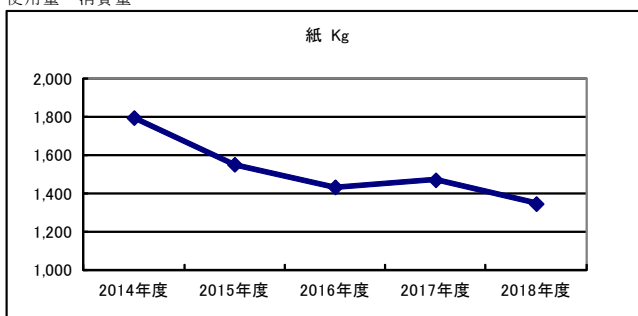
二酸化炭素排出係数	新潟	本社	大阪
(Kg-CO2)	0.556	0.500	0.509
2015年度	東北電力	東京電力	関西電力

二酸化炭素排出量



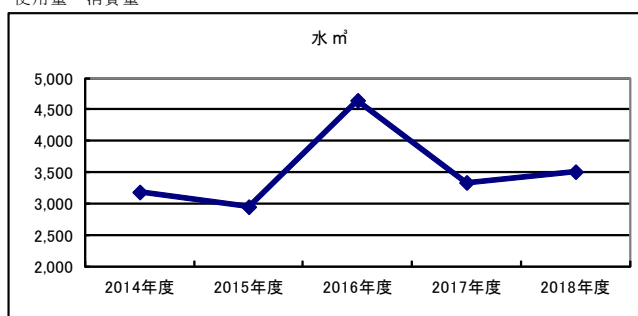
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
化石燃料	kg-CO2	253,504	163,416	114,596	130,126	100,675

使用量・消費量



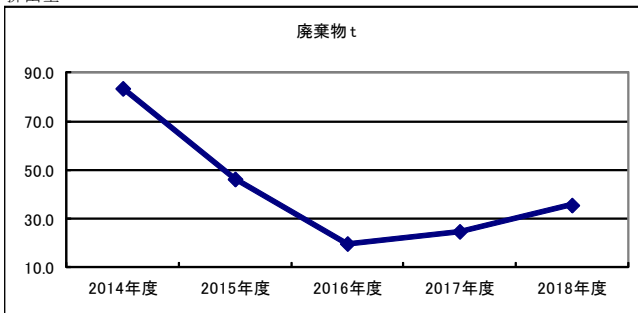
項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
紙	kg	1,794	1,550	1,432	1,469	1,345

使用量・消費量



項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
水	m³	3,183	2,949	4,645	3,336	3,508

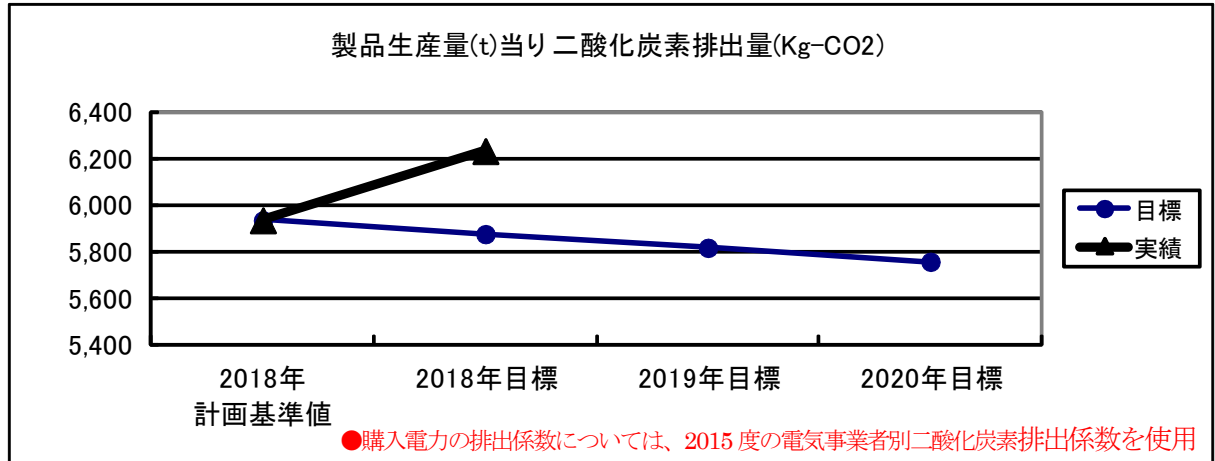
排出量



項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
廃棄物	t	83.6	46.4	19.9	24.9	35.7

6. 環境経営目標の実績と評価

二酸化炭素排出量 「評価＝未達成」



製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO2)		2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
		目標	5,933	5,874	5,815
	実績	5,933	6,231		
2018年(計画基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		105	0	0

製品生産量当り二酸化炭素排出量は、目標に対して△6ポイントで目標は未達成である。

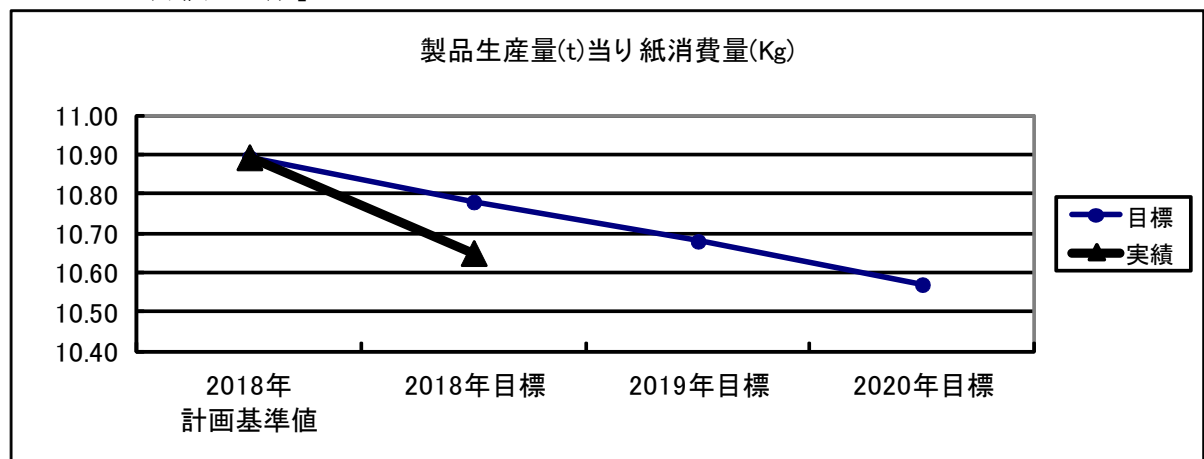
活動については、昨年度に引き続き更なる工場の集約による冷暖房の削減を進めた。

さらにビニールカーテンの組み合わせと平行に、夏場は扇風機、冬場は簡易ストーブ及び防寒着用等を行った。日常の活動事態は地道な取り組みが継続されている事は、内部監査で確認済みである。また生産性向上を目指して作業工数低減につながる改善提案が194件あった。

それらの結果、購入電力投入量(総量)は前年比で2.4%増、化石燃料投入量(総量)は22.6%減となり、エネルギー投入量(総量)では1.7%減で良い結果となった。

購入電力投入量の増加については、連日30℃を超える猛暑により、熱中症対策としてクーリングタワー等の空調をフル運転した為に、未達成となってしまったと言える。

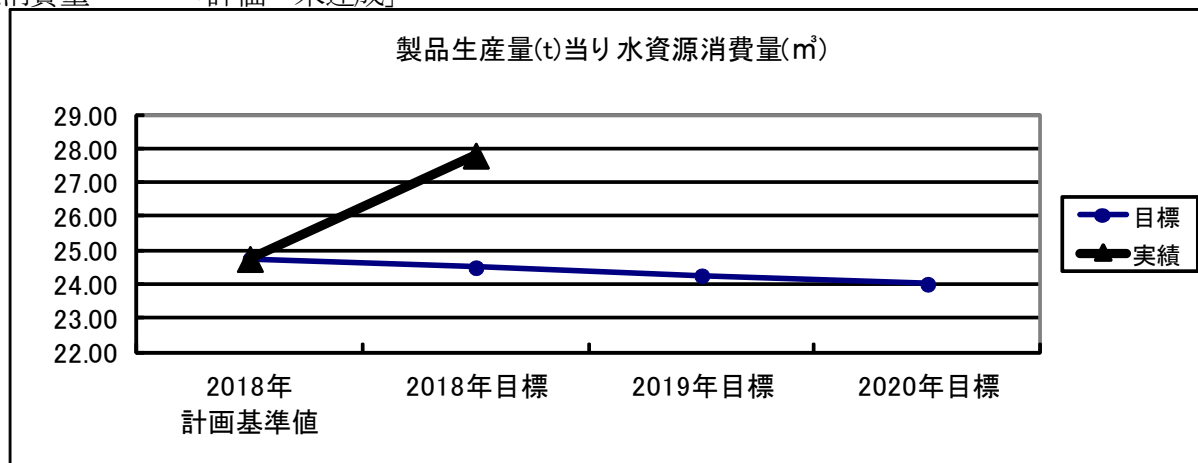
紙消費量 「評価＝達成」



製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (kg)		2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
		目標	10.89	10.78	10.68
	実績	10.89	10.65		
2018年(計画基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		98	0	0

製品生産量当り紙資源消費量は、目標に対して+1ポイントになり目標は達成された。裏紙使用、両面印刷、電子メールの奨励等、地道に積み重ねてきた活動の成果である。紙資源消費量(総量)は前年比で8.5%減であった。

水資源消費量 「評価=未達成」



製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m³)		2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
		目標	24.75	24.50	24.26
	実績	24.75	27.80		
2018年(計画基準)を100としての指数					
	目標	100	99	98	97
	実績		112	0	0

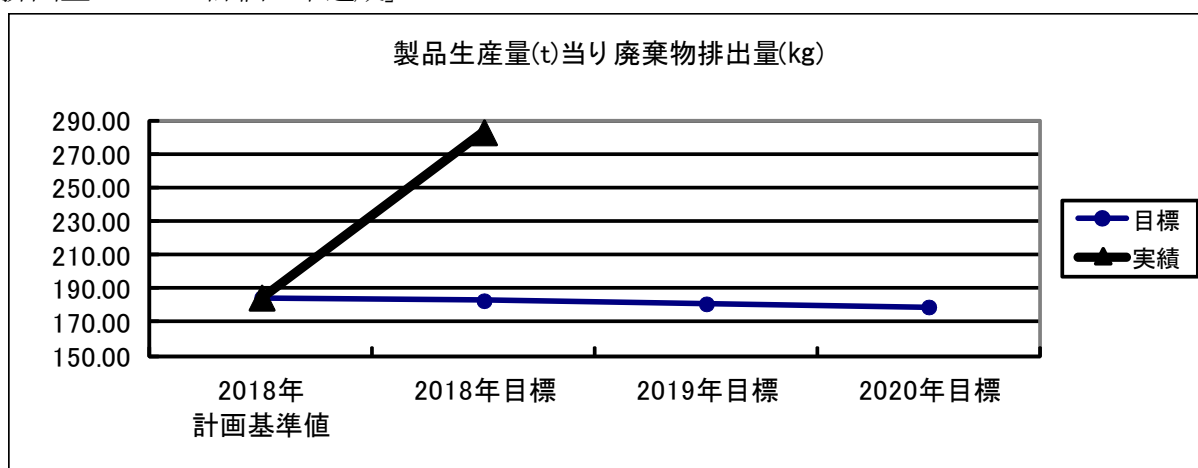
製品生産量当り水資源消費量は、目標に対して△13ポイントで目標は未達成である。

水資源消費量(総量)は前年比で5.2%増であった。

当社では水を使用する生産工程は無く生活用水が主である。

器具の劣化により水道管破裂等が発生したが、早期発見と敏速修理対応で、大きな問題と考えられない為、二酸化炭素排出量と同様に猛暑による、クーリングタワーのフル運転により、未達成になってしまったと考える。

廃棄物排出量 「評価=未達成」



製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (kg)		2018年 計画基準値	2018年目標	2019年目標	2020年目標
		目標	184.72	182.87	181.02
	実績	184.72	282.88		
2018年(計画基準)を100としての指数					
	目標	100	99	98	97
	実績		153	0	0

製品生産量当り廃棄物排出量は、目標に対して△54ポイントで目標は未達成である。
 廃棄物排出量(総量)は前年比で43.4%増であった。
 今年度は工場の集約や新OEM製品投入による配置換え等にて、多量の廃棄物が発生した為である。
 梱包材やビニール袋の再利用や廃棄物の分別回収は継続されている事を確認している。
 今年度は年頭の生産計画が変更となり、その都度目標達成への道を検討して来たが、残念ながら地道な活動では壁を感じた結果となってしまった。今後は生産計画が変更になったとしても廃棄物が増加しない体制作りを考える必要がある。

グリーン購入（事務用品）の推進

2019年3月末時点でグリーン適合品への移行が完了しているのは、31アイテムであり昨年度と同様であった。

グリーン購入を促進の為、業者と協議を重ねているが、コスト面で折り合いがつかないのが現状である。

今後も他社へと広げた活動を行っていききたい。

7. 次年度の環境経営目標

取り組み項目に変更は無いが、今年度の結果ならびに次年度の生産計画より現行目標の達成は難しいと判断している。

したがって現状に沿った下記目標に変更し、社員の意識向上を促進することにした。

長期目標

2019年度を基準として2021年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

短期目標

2019年度を基準として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を1%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を1%削減する」

2019～2021年までの項目ごとの年度目標値は以下とする。

二酸化炭素排出量削減目標

製品生産量（t）当り 二酸化炭素合計（kg-CO2）	2019年 計画基準値	2019年目標	2020年目標	2021年目標
	7,167	7,095	7,024	6,952
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

●購入電力の排出係数については、2015年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用

紙消費量削減目標

製品生産量（t）当り 紙消費量（Kg）	2019年 計画基準値	2019年目標	2020年目標	2021年目標
		12.25	12.13	12.01
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

水資源消費量削減目標

製品生産量（t）当り 水資源消費量（m ³ ）	2019年 計画基準値	2019年目標	2020年目標	2021年目標
		31.98	31.66	31.34
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量（t）当り 廃棄物排出量（Kg）	2019年 計画基準値	2019年目標	2020年目標	2021年目標
		325.43	322.18	318.92
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

8. 環境関連への違反、訴訟等の有無

●適用となる主な環境関連法規等

主な適用法規（◎遵守法令、○準用法令）	主な要求事項	評価
◎下水道法	・特定施設の届出 ・事故時の応急処置と届出	○
◎騒音規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎振動規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎悪臭防止法	・指定区域における規制基準の遵守	○
○PRTR法	・当該化学物質の年間排出量、移動量を把握。 ・基準値以上は報告	○
◎高圧ガス保安法	・貯蔵及び取扱い開始の届出	○
◎廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約の書面締結 ・産業廃棄物管理票の管理 ・産業廃棄物管理票の1年間の交付実績報告	○
◎特定家庭用機器再商品化法	・特定家庭機器の廃棄時にリサイクル料金の支払	○
◎使用済自動車の再資源化等に関する法律	・使用済み自動車の適正処理	○
◎消防法	・防火管理者の選任 ・危険物取扱者の選任 ・危険物貯蔵所の許可 ・危険物保管数量の遵守	○
◎有機溶剤中毒予防規則	・有機溶剤作業主任の選任	○
◎安全衛生法	・安全データシート(SDS)交付義務対象物質の新規採用、作業方法の変更時にリスクアセスメントの実施	○
◎新潟県・燕市環境基本条例	・特定施設の届出、規制基準の遵守等	○
◎フロン排出抑制法	・全ての第一種特定製品の簡易点検実施(3ヶ月に1回以上) ・一定の第一種特定製品について、専門知識を有する者による点検の実施(3年に一回以上)	○

- 自己管理をおこない関連法規の違反は無かった。
- 各方面からの訴訟等は無かった。
- 地域からの苦情は無かった。

9. 環境関連教育

教育・訓練年間計画に基づき環境関連教育を実施した。

実施時期	内容	対象者
・2018年5月	環境経営目標と環境経営計画の周知	新潟事業所全員、本社
・2018年8月	危険物保管場所の緊急対応訓練	新潟事業所指名者
・2018年10月	初期消火訓練	新潟事業所指名者
・2018年10月	防災訓練	新潟事業所全員

10. 代表者による全体評価と見直し

今年度の猛暑や生産量の変更等のマイナス要因に対し、下記の通り会社一体で挽回に努めたが、目標達成できたのは紙消費量のみと残念な結果となった。

	H30年9月末	H31年3月末	アップポイント
①二酸化炭素排出量	対目標△25ポイント	対目標△6ポイント	+19
②紙消費量	対目標△38ポイント	対目標+1ポイント	+39
③水資源消費量	対目標△67ポイント	対目標△13ポイント	+54
④廃棄物排出量	対目標△48ポイント	対目標△54ポイント	△6

H16年度から開始したエコアクション21の活動は15年目を迎え、その間着実に成果を上げながら従業員のエコ意識も大きく改善されている。

- ・製品生産量当たり二酸化炭素排出量 H16より 59.3%減
- ・ 〃 紙消費量 〃 60.8%減
- ・ 〃 水資源消費量 〃 64.2%減
- ・ 〃 廃棄物総排出量 〃 25.2%減

エコ活動で成果を出すには、従業員個々の意識向上と日々の地道な取組みが大切である。引き続き会社全体で意識の啓蒙と継続的な活動を促進させる。